

「しばたの心継承プロジェクト」全体計画（案）

1 はじめに

新発田市は阿賀北市域の持続可能な中核都市として発展していかなければならない。一方、人口減少社会の本格的な到来、超高齢化、地域社会の希薄化など、社会は大きく変化している。こうした変革期にこそ、不易なものを子どもたちにしっかりと身に付けさせ、共に尊重し合いながら課題解決する力を育むことが教育の使命である。

新発田には、新発田の風土、歴史、自然や文化の中で連綿と育まれてきた「しばたの心」が存在する。しばたの心とは人である。人に敬意を払い、人を大事にする心、言わば、「ひとを第一に考え、大事にする心」である。これは不易であり、予測困難な時代を生き抜く資質である。

この理念が新発田市のさらなる成長発展に不可欠であることを教育委員会が自覚し、次代を担う子どもに実感をもって学んでもらえるように全力で取り組まなければならない。そのために、「ひとを第一に考え、大事にする心」を教育全体の中心に据え、新発田の歴史や自然、文化などを人とかがわり合って学ぶ機会を学校教育や社会教育の中で構築する。これを着実に実践することをとおして、ふるさと新発田への誇りや自信を育み、たとえ、一時期新発田の地を離れることがあっても再び新発田で個性を発揮して活躍する人材を輩出していくことが重要である。

2 新発田市の地域に関する学習の現状と課題

(1) 小・中学校での地域に係る総合的な学習の時間の単元等から

全ての学校で地域の特色（歴史や伝統文化、食、自然、産業、地域の人とのつながりなど）を生かした各校の取り組みが行われている。

(2) 全国学力・学習状況調査（質問紙調査）の結果から

新発田市は全国平均より高いが、「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」の質問に対して肯定的評価が県平均を2～3ポイント下回っている。

(3) 課題

総合的な学習の時間の実施内容や全国学力学習状況調査の結果から、地域に関わる学習をとおして地域へ関心や理解を高めているが十分とは言えない。今後は、地域に対する実感を伴った学びに改善していくことが大切である。

体験的な活動を工夫し、児童生徒の地域社会との関わりの機会や内容を充実、発展させて地域への関心を高めていく必要がある。

3 基本方針

【新発田の教育 キャッチフレーズ】

ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育

【目指すまちの姿】

地域全体でふるさとしばたを担う人材を育成する体制を確立して、世代を超えて互いを大切にする心を高め合い、しばたを愛し、しばたに住み続けたい、将来またふるさとを思いしばたに戻って来たいと思う子どもたちが増えるまち。

【目指す子ども像】

しばたを誇りに思い、愛する気持ちをもって夢や希望に向かって学び続ける子ども

しばたの心継承プロジェクト

【学校教育の役割: プロジェクト1】

キャリア教育の視点から総合的な学習の時間等における、人とのふれ合いや体験的な活動の充実を図ってふるさとしばたへの誇りと想いを深める。

【社会教育の役割: プロジェクト2】

興味関心に基づいて、歴史や文化、伝統、産業などの本物のよさに触れる機会や場を設定して、学校教育での学びをさらに深める。

4 取組にあたっての視点

学校教育と社会教育の中で現在取り組んでいる「自然」「歴史」「文化」「産業」などの豊かな教育的資源を体験的に学ぶ事業について、これらがもつ価値やよさに気付かせることを大切にして次の視点から取組を展開する。

【視点1】 新発田のまち全てが教材であり、それらを生かして人とかかわり合いながら体験的に学ぶ学習を進める。

【視点2】 事業の見える化を進め、児童、生徒、地域住民に対する意識化を図る。

【視点3】 事業の取組の意味づけをおこない、しばたの心を継承する学習であることを自覚できるようにする。

5 実施期間及び進行管理

当計画の期間は、令和2年度から令和4年度までの3年間とし、令和4年度からは4ヶ年毎に見直しを行う。また、実施にあたっては毎年度検証し必要に応じて見直しを行う。

6 具体的な取組

プロジェクト1 (学校教育が中心となって行う取組み)

(1) 「プロジェクト単元」の設定及び推進

総合的な学習の時間等で取り組んでいる単元の中からはばたの心プロジェクト単元を設定する。学習の意味づけをおこない、学習内容の充実発展を図る。

(例) 御免町小 3年「伝えよう新発田祭り」 猿橋中「地域貢献活動」

(2) 「〇〇学校の日」の新設

各校で地域とかかわって取り組んでいることの見える化を図るため、「〇〇学校の日」を設定し、その活動時に広報「しばた」での情宣とのぼり旗をたてることにより、児童生徒、保護者、地域住民への意識を高める。

(例) 藤塚小 海開きでの「藤塚大漁太鼓」→藤塚小学校の日
本丸中学校、外ヶ輪小学校の「新発田城清掃活動」
→本丸中学校の日、外ヶ輪小学校の日

(3) 地域支援コーディネーターの全学校への配置と発信の場の設定

- ① 各校に地域人材と学校教育との連絡調整を行うコーディネーターを配置し、地域の特色を生かした体験的な学習の円滑な実施と充実を図る。
- ② 民間とも連携し、児童生徒が自分たちの学びの成果を自ら発信できる場を確保し、地域に発信することを通して学びをさらに深めると共に、地域とのつながりを強めていく。

(例) 地元の商店、郵便局、農協など、民間と連携した成果物等の掲示

(例) 辻の札やイクネスしばた、地区公民館等を利用した発表や展示。

(4) 「食のまち新発田を知ろう」出前講座の実施

総合的な学習の時間、家庭科等に講師派遣を実施。

(例) 荒橋小学校「お弁当づくりにチャレンジ 新発田の特産物調べ」
川東中「地域の食、笹団子作り」

(5) 市歌「虹の橋をわたって」に親しむ機会の設定と定着

市民歌を音楽の時間や学校行事等で歌い親しむ場面を設定し、いつでもだれでも歌えるようにする。

プロジェクト2 (社会教育が中心となつて行う取り組み)

- (1) 地域住民、関係団体、ボランティア等と連携した新発田市の自然、歴史、伝統、文化、産業に関わる内容に関する体験、参加型講座等の開設。
 (2) 学校への人材派遣、紹介、教材の提供

担当課	主 な 取 組
中央図書館	○図書館の図書資料を活用した調べ学習等への支援事業 (例) 新発田についての調べ学習コンクールの実施、表彰、展示
歴史図書館	○歴史関する図書資料等を活用した調べ学習への支援事業 (例) 新発田の歴史調べの学習支援、展示等
青少年健全育成センター	○城下町しばたわくわくウォークラリー 主催：青少年健全育成市民会議 ○児童クラブ、放課後児童クラブでの夏休みを活用した新発田に関する学習や活動の実施 ○児童センターでの、新発田の歴史、文化を題材にしたクイズ大会、新発田の食材を使った調理教室
中央公民館	○オムレツクラブ(伝統コース、体験コース)事業 ○防災キャンプ及びあかたにの家を活用した体験事業 ○文芸しばたへの参画推進(詩、短歌、俳句、川柳等)
文化行政課	○埋蔵物の出前授業(小学校6年生) ○民俗文化財の公開授業(小学校6年生)

その他 しばた未来創造プロジェクトと連携した取組
 (みらい創造課 定住促進室)